平成30年1月31日(水)付 十勝毎日新聞

北斗に脳卒中専門病棟

管内初 24時間体制で患者ケア

社会医療法人北斗（鎌田一理事長）が管内初の脳卒中ケアユニット（SCU）を帯広市内の北斗病院に設置し、本格稼働させた。これまで脳卒中関連の治療機能は病院内の5カ所に分散していたが、2階・東側に新設した専用病棟に集約。患者を集中的にケアできる24時間体制を構築した。

迅速かつ手厚い治療を

北斗病院のSCUは、道東で4カ所目の施設となる。病棟内にベッドを9床用意。病院の副院長で脳卒中センターのセンター長を務める新田一美医師をはじめとする31人（医師14人、看護師14人、作業療法士1人、理学療法士1人、薬剤師1人）で構成する専門チームを配置した。

SCUのメンバーとして医師、看護師、作業療法士、理学療法士、薬剤師で構成する専門チームを配置した

高齢者の寝たきりの大きな原因にあげられる脳梗塞や脳出血などの脳血管障害は、発症後早期の治療やリハビリが予後の回復を左右すると言われる。

2005年に国内で認可され、効果をあげているt-PA静注療法（血栓溶解療法）も発症後4・5時間以内に投与する必要があり、脳卒中治療は時間との勝負という側面が強くなっている。

北斗病院では昨年、入院患者が約700人となり、そのうち6割が救急搬送されてきた。SCUでの集中治療は、救急搬送された患者への迅速な対応などに貢献することになる。

SCUは昨年12月から段階的に立ち上げを始め、1月から本格稼働させた。新田センター長は「まだ稼働したばかりだが、非常に良い手応えを感じている。急性期の患者の皆さんに、迅速かつ手厚い治療を提供し、重症化を防いだり、入院期間を短縮したりできるようにしたい」と話している。

（奥野秀康）